

フリガナ	ヤマダ ヤスヒロ		学部 学科など	法文学部 社会システム学科
氏 名	山田 康弘		職 名	准教授
			講 座など	行動社会講座
専門分野	・考古学（先史学） ・形質人類学	その特徴	考古学者でこの両分野に精通するものは極めて少数である。	
研究テーマ	・『先史時代の墓制』 ・『先史時代の祭祀』 ・『先史時代の生業』	その特徴	・出土人骨をもとに考察を進めている。 ・墓制と絡めた形で考察を行なっている。 ・炭化種子を抽出しようとする試みを行なっている。	
可能な共同研究・地域連携	・テーマ・項目：・旧石器～弥生時代の社会（集落論・墓制論・生業論）、・出土人骨の鑑定等 ・要望事項：			
可能な科学技術相談	・項目：・考古学（旧石器～弥生時代）、形質人類学			
キーワード	考古学、形質人類学、先史時代、墓制、祭祀、人骨			

### \* 研究のポイント

テーマ1) 先史時代の「**墓制**」の研究：主として縄文時代と弥生時代のお墓の構造や副葬品、あるいは出土した人骨そのものを調べることによって、**墓制**（埋葬の方法）などを研究するとともに、当時の人々がどのような一生を送っていたのかという**ライフヒストリー**（生活史）について考えています。また、墓地を分析することによって当時の家族の構成や婚姻関係の結び方、階層・階級制度の有無といった**社会構造**のあり方を推定しています。

テーマ2) 先史時代の「**祭祀**」の研究：先のテーマに加えて、縄文時代の土偶や石棒、弥生時代の鳥形木製品といった「**祈り**」の道具を調べることによって、当時の人々がどのようなことを考えていたのか、どんなことを願って**祭祀**（おまつり）をしていたのかといった**精神文化**のあり方に想いをめぐらせています。

テーマ3) 先史時代の「**生業**」の研究：縄文時代や弥生時代の人たちが、どのようにして食べ物を手に入れていたのか、という点についてさまざまな角度から調べています。たとえば、狩りをするときに重要な役割を果たしていたイヌや、時代に人たちのメジャーフード（主な食べ物）であったドングリ類やコメなどの植物がどのように**管理**（飼育・採集・栽培 etc.）されていたのかといった点を考古学的な観点から考察しています。

テーマ1)と2)を通して、当時の人々が「**生**」と「**死**」というものをどのように考え、どのように受け入れていったのかということを知りたいと思っています。心豊かに自然と調和した暮らしを送っていた先史時代の人々が「**生**」と「**死**」をどのように見つめていたかということを知ることは、「**生**」と「**死**」の本質を考えることにもつながります。このことは、現代における「**脳死**」、「**末期医療**」や「**宗教**」の問題を考える上でも重要な視点を与えてくれると思っています。また、テーマ3)の研究を進めることによって、昔の人たちがどのようにして食べ物を入手していたのかがわかります。**食糧獲得方法の変遷**を知るとは、私たちの社会がどのように発達してきたかということを知ることだけでなく、今後私たちが「**遺伝子組換え食品**」や「**クローン技術による食糧生産**」に対してどのように対処してゆくべきかという問題を解く鍵となります。そして、このような**経済活動**のあり方について調べることも、世界中の民族事例を参照したり、古人類学、霊長類学などの研究成果を援用したりしながら、先のテーマ1)と連動して当時の**社会構造**のあり方を推測することができます。また、これはテーマ2)の**祭祀**がどれくらいのレベルにあるのか（位相）を知る手掛かりともなります。

当時の**社会構造**、特に「**家族**」のあり方について検討を進めるといことは、とりもなおさず「**家族**」とは何か、という問題について考えるということです。現在のように、さまざまな局面で「**家族**」を含めた「**共同体**」の崩壊が叫ばれる中、考古学的な見地から「**共同体**」の起源や変遷等について発言をすることによって、生きていく上で本当に必要な絆とは何なのか、問いかけていきたいと思っています。

このように、考古学（先史学）の研究内容は、様々な局面で現代社会と関わっているのです。私の研究テーマの中核は、まさにその点にあります。